

こもれび

秋

第11号

発行:2006年10月1日
向陽台病院広報委員会



▲ デイケアの陶芸作品に秋を盛り付けました

季節の花



石罫(つわぶき)

葉に“つや”があり、落(ふき)にも似ていることから「つやぶき」となり、「つわぶき」と呼ばれるようになった。花言葉は「困難に傷つけられない」

CONTENTS

- 地域の声「茂村住宅株式会社 茂村廣氏より」
- 病気のお話「発達障害のまとめ」
- 地域連携
- スタッフのちょこっとコラム
- こころと体の健康アドバイザー事業
- お口の中は大丈夫？



地域社会の一員を意識する当院が「病院内部からの声だけではなく、地域からの声を聞き、それを病院の今後に反映させたい」と始めたこの企画。

第3弾は、平成14年に当院と同じ植木町にグループホーム「ひまわり」を設立時に大変お世話になった茂村住宅株式会社の代表取締役（茂村廣氏）にお話をうかがいました。

杉本: 初めて当院から話を聞いた時の印象はいかがでしたか？

茂村氏: 初めは精神科の患者さんということで、実際どういう生活をなさるのが全く不明であったため戸惑いを感じました。また、私自身が理解するだけでは契約できず、家主さんにどう説明したらいいのか心配でした。ただし、今となっては完全に偏見でしたが、当時は男性の方が問題行動が多いと思っており、女性だけということで少し安心感もありました。

杉本: 現在、精神科病院や患者さんに対する印象はいかがですか？

茂村氏: 精神科病院というと鉄格子があり、閉鎖的で社会と隔離されたイメージがありましたが、実際に向陽台病院に足を運ぶと「一般的な病院と何ら変わらないんだ」と思いました。また、グループホームの利用者のみならず、多くの患者さんと実際にかかわり、穏やかで明るい方が多い印象を持つようになりました。

杉本: 実際に患者さんと接することでイメージが大きく変わったのですね。それでは、グループホーム設立時に苦労したこと、また、新たに設立するとしたらこれを解決して欲しいという問題はありますか？

茂村氏: 家主さんに理解していたいても地域住民から何らかの苦

情があがることの心配はありました。それも先ほどの話と同じく偏見やイメージからきていると思います。実際に地域住民から特別何か苦情があがっているとは聞いたことがないですし、その心配は今はないので新しく設立するとしたらありがたく受けたいと思います。もちろんグループホームとしてだけではなく、アパートでも構いません。

杉本: そう言っていただけると大変ありがたいです。ところで、グループホームには世話人がいますが、連携などはとっていますか？

茂村氏: 特別に連携をとっているということはないです。何か故障したり、不具合があった時に連絡をいただいており、それは借主と不動産屋という一般的な関係と何ら相違ありません。

杉本: グループホームだから何か特別な対応をしているということはないということですね。最後に当院に対する要望、または精神科医療に對し望むことはございますか？

茂村氏: 不動産屋として患者さんの社会復帰に役立つのであれば応援していきたいと思います。ただし、まだ多くの方々に偏見があると思います。私は仕事上、多くの患者さんとお出会う機会があり、今ではなくなりましたが、知らないからイメージ

だけで「どう接したらいいかわからない」という方も少なくないと思います。私は具体的な取り組みについては分かりませんが、患者さんが地域住民の方々と接する場を提供していかれては、と思いました。

杉本: 全くその通りだと思います。当院では病院理念として「地域社会の一員を意識する病院」ということを掲げています。さまざまな活動を通し、支え合う社会を目指していければと改めて強く思いました。

取材を終えて

茂村氏のように患者さんと接することで偏見やイメージが一変したという声はよく耳にします。医療機関に勤めるとどこか「一般的な感覚」が失われ、それこそ自身の価値観やイメージを先行させてしまっていないかと思ひ直しました。

患者さんの社会復帰には医療機関のフォローだけではなく、さまざまな方々の理解と協力が必要であることに改めて気づき、心強い支援者がたくさんいることを実感できました。

インタビュー：地域連携室
精神保健福祉士 杉本 篤史

発達障害のまとめ

今まで4回にわたって、発達障害についてお話してきました。今回はこのシリーズで紹介した、「自閉症」「ADHD(注意欠陥多動性障害)」「LD(学習障害)」「アスペルガー障害」について、もう一度まとめてみたいと思います。



まず、「**自閉症スペクトラム**」ですが、ことばや身振り手振り・表情などを適切に用いたり読み取ることが苦手な ①**コミュニケーションの障害**(場の雰囲気をつかむことができない) ②**社会性の障害**(予想外のでき事に対応できず、相手の気持ちを推し量ることができない) ③**イマジネーションの障害**の3つを併せ持っているという特徴があります。

次に、「**ADHD(注意欠陥多動性障害)**」ですが、これは、①**不注意**(注意の集中が続かない、外の刺激によってすぐ気が散ってしまうなど) ②**多動性**(じっとしていられない、おしゃべりがとまらないなど) ③**衝動性**(待つことができない、途中で割り込んでしまうなど)の3つの特徴があります。

「**LD(学習障害)**」については、知的能力は正常ですが、①**読字障害**(字や文章を正確に読めなかったり理解できない) ②**算数障害**(計算能力や数的な推論ができない) ③**書字表出障害**(字を正確に書けない) ④**特定不能の学習障害**(①～③には当てはまらないが、学習上で明らかに不得意な分野がある、もしくは①～③の複数の障害を併せ持つ)の4つのタイプがあります。

「**アスペルガー障害**」というのは、①**集団行動が苦手** ②**突然のスケジュール変更で大混乱する** ③**冗談が通じにくい**(字義通り受

け取ってしまう) ④**場面で言葉を使い分けられない** ⑤**相手の気持ちを読むことが極端に苦手** ⑥**興味がある対象については驚異的な知識を持っている** ⑦**不器用**などの特徴を持っています。

おおまかに4つの発達障害の特徴について触れましたが、今回は、これらの発達障害の共通点についても触れたいと思います。

まず1つめですが、これらの特徴が起こる原因についてです。今まで、こういった障害が世間に認知されていないがために、お子さんの出してくる問題はすべて子どもに直接に接する人々の責任とされてきました。しかし、これらの障害を持ったお子さんの特徴は、親のしつけであったり、教師の指導力などが原因で起こるものではありません。

もう1つの共通点は、そういった障害そのものの対応以上に、障害の特徴をきっかけとして二次的な問題が起こりやすいということです。このような特徴や症状を認めずに叱り続けたり、周囲がその特徴を理解できずにいると、親子関係をはじめとして、対人関係を良好に形成することができません。そして、そういった環境の中では子どもは自尊心を持つことが難しくなります。親子関係や心の発達も健全な方向に向かわず、思春期になって不登校や非行をはじめとする、さまざまな心と行動の問題へと発展してしまう可能性が出てくるのです。

3つ目は、特別な支援が必要であるということです。こういった特徴をもったお子さんは、一見学力面に特別な遅れもないため、見過ごされがちです。しかし、社会の中で「できてあたりまえのこと」がどうしてもできないため、不適応状態に陥りがちです。そういった不適応な面をどうにか改善していくために、そのお子さんの特徴を知っている専門家がかかわることが大切になってきます。

この共通する3つの問題に対して、当院で行っている取り組みを紹介します。上記に挙げたような特徴をもつお子さんを対象にした、「**博士クラブ**」というグループを毎月開催しています(参加には当院の医師の指示が必要です)。そこでは、それぞれのお子さんの特徴を理解している専門的なスタッフがかかわり、ゲームや創作活動などを通しての対人面でのトレーニングを行っています。また、親の会では、同じ特徴を持つ親御さん同士で話し合う場を持ってもらうことで、悩みなどを共有し、また、お子さんの特徴のことについて学びながら、対応のコツを考えていくということも行っています。

当院では思春期発達障害外来(毎週金曜午後)を開いております。まずはお子さんの特徴でどうしても気になる、対応がわからないということがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。

(臨床心理士 正田 忠寛)

夏祭り

8月9日、患者さん、ご家族、スタッフが楽しみにしていた恒例の夏祭りがありました。開始時間前から患者さんやスタッフは色とりどりの綺麗な浴衣を着て準備していました。また、ご家族は開始より早く来院されていました。

院庭にはやぐらや夜店が立ち並び、開始が待ち遠しかったのですが、運悪く夕立が降り、外での夏祭りは難しくなりました。運営しているレク委員の判断で、急きょ病棟での開催となりました。参加者が多かったため、スペースの関係上、残念ながら盆踊りはできませんでした。

田中副院長の開会あいさつ後、夜店が開店し、患者さん、ご家族、スタッフに活気が出てきました。夜店ではデイクアから夏の風物詩のかき氷が出されました。今年初めてのマンゴー味が売られて行列ができました。病棟や事務、栄養科からは毎年人気のまんじゅう、ジュース、ゲーム、綿菓子やソフトクリームなどがあり、中でも今年から出店している焼きそばやたこ焼

きは大好評でした。患者さんはいろいろな夜店を見て思い思いの品物を買って、仲間同士で一緒に食べ、楽しい会話をされ、ご家族と楽しいひと時を過ごされていました。

お腹が一杯になったころ、夕立も上がり、花火を院庭で行うことができました。花火が上がると「おー！わあー！」とたくさんの歓声が沸き起こりました。

今年の夏祭りはあいにく夕立がありましたが、無事に終わりました。

来年も楽しい夏祭りにしたいと思います。

(看護部 原口 正吾)



で風船アートや水風船、カブトムシなどを子どもたちに無料で配ったりしました。デイクアの店で特に人気だったのはビーズ作品です。小学生にも手の届く値段で、小中学生が真剣にプレスレットやネックレスを選ぶ姿は、自分たちの作ったものが人を喜ばせたという満足感を湧き起こせました。作品を作ったメンバーも同様の思いだったでしょう。

陶芸作品は年配の方、革細工は男性にとそれぞれ傾向があるのを知ったのは昼ごろです。販売の中心になったのはヤンググループのA君です。積極的に声を出し、お客さんとの会話を楽しみ、子どもから主婦、年配の方など、さまざまな人の心をつかんでいました。元々社会性のある方ですが、接客の態度からは優しさがにじみ出ていました。

閉店の時間には、ビーズ作品とゴーヤは完売、革細工と陶芸作品はわずか数点が残る状態でした。売り上げは、デイクアメンバーでバス旅行に出かける資金となります。

よさこいソーランでは、スタッフの中にデイクアメンバーで唯一参加したB君が中心となりました。B君は数カ月前から踊りの練習に熱心に参加し、練習が遅れているスタッフ

はってん祭

当日は猛暑でした。デイクアスタッフとメンバーは、数カ月前から練習していた「よさこいソーラン節」を発表するということで、緊張しながらこの日を迎えました。

朝早くから10名弱のメンバーが応援にかけつけてくださり、テント張りなどの出店準備が行われました。デイクアからの出店はメンバーが作ったビーズ作品、革細工、陶芸作品、園芸プログラムで栽培した採りたてのゴーヤなどの販売とビーズの体験コーナーです。また、隣では地域生活支援センター「なでしこ」から、喫茶「向」でも好評のソフトクリームとジュースの店が出されました。こちらは常時人気で行列ができていました。他にも、共同



には指導もしてくれました。また、全体練習ができていないとスタッフに声を掛け、全員で合わせるときも最前列で踊ってくれました。

当日は最前列の中心で堂々とした踊りを披露し、その後司会のインタビューでは会場を笑わせ、大いに沸かせていました。ステージから下りると、「緊張した」と言いながらも、その笑顔からは充実感が感じられました。演舞直前に雨が降り出したり、前の団体もソーラン節を踊ったりといった逆境にも見舞われましたが、「笑顔が溢れた踊り」だったとの司会者の言葉は今でも心に残っています。それは普段の



デイケアの様子を表した踊りだったのでしょう。

いつも決まった場所で会う人と、違った場所で会うことでの発見は大きく、今まで知っていると思って

いたことが、ほんの一部であることを痛感させられました。参加した全ての人にとって、新鮮な体験となったことでしょう。

(臨床心理士 井本 香織)

スタッフの ちょこっとコラム 「アルコールミーティング」

向陽台病院はたくさんのミーティングがある病院なのですが、今回は私も担当している自助グループのアルコールミーティングについて話をしたいと思います。

アルコールミーティングは当然ながらアルコール依存症の患者さん(現在は10名ぐらい)が参加します。スタッフは医師・精神保健福祉士・看護師・臨床心理士という体制です。私が3年前に初めて参加したときは、3、4名程度の参加者で、どこか殺伐とした雰囲気もあり(私の中に偏見があったのかも知れませんが)、いつも不安でいっぱいでした。ただ、司会ではありませんでしたの

で、気楽な感じで参加していました。しかし、半年参加したころ、司会をしていた先輩が退職し、司会が回ってきたのです。始めて半年ぐらいは、毎回のようには患者さんから「スタッフがしっかりしろ」、「テキストをつくれ」、「スタッフの知識はどのくらいあるのだ」と試され、不安を通り越えて怒りが芽生えた時期もありました。怒りの内容は「ここは自助グループではなかったか」というものでした。もちろん、知識が少ない自分への怒りもありましたが…。しかし、ミーティングでは何度も患者さんに「皆さんはどうしていきたいのか」と問いかけ続けました。その結果なのか、私に

力がないことに気がつき自分たちで何とかしないといけないと思われたのか、テーマを患者さんたちが半年分出し、それについて毎回話をするようにになりました。いつからという明確な区切りはありませんが「自助グループってこんな感じなのかな」と思って、いつも楽しく参加させていただいています。患者さん同士の繋がりが増えた分、継続して参加できるグループになっていて、ついでに私自身も少し成長したかと思うこのごろです。でも、こんなことを書く、「まだ早い」とまた、叱られそうですが。

(臨床心理士 濱本 晋也)

こころと体の健康アドバイザー事業

8月7日18時30分から向陽台病院リユミールにおいて、平成18年度鹿本都市の第1回「こころと体の健康アドバイザー事業」ブロック別検討会が行われ、事務局を担当される山鹿市立米田小学校校長古賀一史先生（鹿本都市学校保健会会長）をはじめ、30名ほどの小・中・高校の養護教諭の先生方がおいでになりました。「こころと体の健康アドバイザー事業」とは、熊本県教育委員会と学校保健会が実施しており、県内を13のブロックに分け、子どもたちの心や体の健康を推進するために、専門スタッフが相談を受けたり、事例検討会などを行ってアドバイスをしたりする事業です。専門スタッフであるアドバイザーチームは、精神科医、小児科医、臨床

心理技術者、精神保健福祉士、保健所で構成されており、本院からは精神科医として横田院長が、臨床心理技術者として植村リハビリテーション部長が参加しています。

今回の検討会にはその他、山鹿市立病院の松本真一先生や山鹿保健所の戸床しおり先生が参加されました。当院の精神保健福祉士や臨床心理士も、地域連携の一環として、許可を得て参加させていただきました。

事例検討はプライバシー保護を確認したうえで、小学校、A・B、中学校、高等学校に分かれました。私は小学校の先生方のグループに参加しました。学校教育の中で、私たちとはまた違った視点で子どもたちのことを思い、将来を真剣に考え、



日々の業務に取り組まれている先生方の姿を初めて垣間見ることができ、私自身も医療機関のスタッフとして、精神保健福祉士として何ができるかを改めて考えることができました。今後も先生方と連携をとりながら、一人ひとりの心の問題に向き合いたいと思います。

また、地域に開かれた病院を目指すという理念のもと、このような地域での取り組みに、今後も積極的に参加させていただきたいと思っています。

（精神保健福祉士 吉田 祥子）

お口の中は大丈夫？ ～植木町役場から歯科衛生士さんをお招きして～

平成18年7月20日（木）にデイクアで植木町役場からは是永歯科衛生士さんをお招きして、口腔ケアについてお話していただきました。今回歯科衛生士の方をお招きした理由は、デイクアメンバーがよく歯科に通われているからでした。メンバーによっては精神症状のために身の回りのことができにくくなったり、歯磨きの習慣がおろそかになる方もいます。そこで、もう一度歯磨きの必要性についてみんなで学習しようということになったのです。

是永 歯科

衛生士さんから、8020運動（80歳までに自分の歯を20本残そう！）の話や虫歯、歯周病について、また入れ歯の手入れについても講義していただきました。是永さんの優しい口調のお話にメンバーは引き込まれるように聞かれており、いつもより集中されているようでした。特に入れ歯の手入れについては「私はほったらかしにして寝とった、いかんだったね」「痛くてはめていないけど、歯科に行かなんね」など、反省する発言も聞かれていました。

後半は、歯垢の染め出しを実際にやっていただきました。希望者のメンバー7名の歯に赤い液を塗ってうがいをする、歯垢の部分が赤

く残る仕組みです。中には、歯が真っ赤になってしまい、「いかに磨いていないか一目瞭然だね」など驚いていた方もいました。最後の質問タイムでは、メンバーから歯磨き粉の付け方、歯ブラシの選び方などたくさんの質問があり、関心の高さがうかがえました。また、実際に模型やパネルを使いながらの説明はとても分かりやすかったという感想もあり、病院スタッフではなく、講師の先生にお話しいただくことはとても新鮮だったようでした。

今後も専門家に来ていただいて、いろいろなお話をうかがいたいなと思っています。

（精神保健福祉士 春木あゆ美）



こもれび・para

向陽台病院ではさまざまな情報を発信しています

そよ風

平成18年7月22日、向陽台そよ風家族会の講演会が向陽台病院の新デイク棟ホールにて開催されました。当日は大雨に見舞われたにもかかわらず、他の医療機関からなど関係機関の方を含めて27名の方が参加されました。今回の講演会は、以前から参加ご家族より、親亡き後の不安が多くあがっていたことから、「成年後見制度について」ということで成年後見センター・リーガルサポート(司法書士)の矢野道弘先生よりご講演いただきました。

まず、成年後見制度とは何かという説明がありました。判断能力が不十分な高齢者や障害者が、例えば、本当は必要でないものを契約してしまった場合に成年後見制度を申し立てしておくことにより、成年後見人が取消権を使ってその高齢者や障害者の不利益にならないようにしてもらえ、という仕組みでした。財産侵害を受けたり、人間としての尊厳が失われたりすることがないように、法律面や生活面の支援を受けることができる制度であることから、参加者のみなさんは真剣にお話を聞かれていました。身近な面で援助を受けることができる制度という反面、詳しい内容や申請手続きなど難しい印象を受けましたが、講師の先生から、リーガルサポートセンターでは対象者に合わせて一番ふさわしい方法を提案できるよう個別にも相談に応じていただけるとのことで、ご家族も安心されたような印象でした。

家族会では、ご家族の不安や疑問に少しでも支えになればと活動しています。ご家族の皆さまのご参加をお待ちしております。

(精神保健福祉士 大山 満子)

■ 次回家族会の予定：新年会(内容は未定)

平成19年1月27日(土) 10:00～12:00

成年後見制度 お問い合わせ先

社団法人成年後見センター・リーガルサポート
熊本支部 熊本市大江4丁目4番34号
TEL:096-364-2889

栄養だより

今年の夏は猛暑の連続でした。高温多湿の気候の中で、夏ばてを起こしてしまった方もおられるのではないのでしょうか? 冷たくてのど越しのよいものばかり食べていると胃腸不良の原因となります。

夏の暑さで疲れたからだをリフレッシュするためにも、秋に豊富な旬の食材を積極的に摂りましょう。今回はその中でも、「青魚」にスポットをあててみたいと思います。

旬
の食材

さんま・まぐろ・いわし・さけ
秋刀魚・鯖・鰯・鮭・ヒラメなど

中でも青魚の
美味しい季節です!



青魚の栄養価

魚は、良質のたんぱく質を含みます。特に青魚はコレステロール低下作用や脳の活性化に良いと言われているDHAやEPAなどの不飽和脂肪酸を多く含み、健康によいという情報は広く知られていることだと思います。

魚の部位による栄養価の種類と量

目…目の後ろの脂肪にはDHA、EPAが豊富に含まれています

身…良質のたんぱく質、DHA、EPAが豊富に含まれています
(特に青魚にはこれらの栄養素が多く含まれています)

皮…ビタミンB1、Aが含まれています

血合い…鉄分、ビタミンB1が豊富に含まれています
(貧血の方におすすめ)

内臓…各種ビタミンが豊富に含まれています



旬の食材には、普段よりこれらの栄養素が豊富に含まれています。特に旬の青魚は脂がのって大変美味です。身だけではなく、皮や血合いの部分も残さず食べましょう。一日に摂取する目安量は切り身1切れくらいです。肉食などに偏らず、お魚も積極的に食べるようにしましょう。



これからの予定

11月・12月…………… バイキング
12月…………… クリスマス料理
1月…………… 正月料理



編集後記

今回は、いつもに増してヒヤヒヤしながらの編集となりました。一体いつになったら、穏やかな顔で編集できるようになるのかと思います。先が思いやられますが、継続して作りあげることができているという、ポジティブな側面に目を向けて、がんばっていききたいと思います。

(濱本 晋也)

外来担当医一覧表

	月	火	水	木	金	土
午前	松岡 大石	田中 松本	横田 松岡	田中 大石	横田 松本	菊岡 週替わり
午後 予約	中林	津田	今井 物忘れ外来 大石	松岡 松本	佐藤 思春期外来 横田	
新患 午前	松本	松岡	大石	松本	大石	松岡
新患 午後	田中	松本	佐藤	田中	思春期外来 横田・田中	

- 診療科目 精神科・心療内科
- 特殊外来 水曜日午後：物忘れ外来
金曜日午後：児童思春期（発達障害）外来
- 病床数 220床
- 外来診療時間

※新たに当院を受診される方は午後4時までに事前連絡のうえ、来院ください。

月～金曜日 午前9時40分～12時00分
午後2時30分～5時00分
土 曜 日 午前9時40分～12時00分

祝日は平常通り診療しています

向陽台病院の理念

主体性を育む病院
援助者としてのチーム医療を行う病院
地域社会の一員を意識する病院



当院では平成8年から、のぞえ総合心療病院（福岡県）の治療共同体理念をモデルにしています。



産交バス
向坂バス停から
徒歩3分
明治乳業バス停
から徒歩3分

車
植木ICから10分

JR
植木駅下車
タクシーで6分



日本医療機能評価機構認定病院 日本精神神経学会専門医研修指定病院

医療法人横田会 向陽台病院 <http://www.koyodai.or.jp/>

〒861-0142 熊本県鹿本郡植木町大字鑑田1025
TEL：096-272-7211・FAX：096-273-2355